

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<p>○災害、感染症対策</p> <p>2020年度に新型コロナ対策としてBCP(事業継続計画)を策定したが同法人内でコロナ陽性が発生した部署の教訓を受け、より実践的な内容を盛り込む必要がある(有事の際に誰でもが沿って動けるマニュアル作り等)。2021年度改定ではBCP策定が義務化(3年の経過措置あり)される。今年度の取り組みを振り返り、感染・災害対策に実効性の高いBCPへの刷新とシミュレーションが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 同法人他部署の経験に学び、マニュアルを含め実効性の高いBCPに刷新する。</li> <li>■ シミュレーションを行い、有事には不安なく行動できる。</li> <li>■ コロナ禍での感染対策と災害対策を両立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緊急事態宣言解除後に消防署立ち合いでの避難訓練実施</li> <li>■ BCP刷新と災害時含むマニュアルの見直し</li> <li>■ BCPとマニュアルに沿ったシミュレーション実施</li> <li>■ 備蓄品の確認、持ち出し用衛生用品の選定(消防署の助言を仰ぐ)</li> </ul>	12ヶ月
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2020年度事業計画に掲げていた地域活動は殆ど実施できていない。ワクチン接種等、今後流行状況は変化していくだろうが、以前と変わらない人と人の繋がりを取り戻すには数年単位を要する可能性もある。</p> <p>コロナ禍での新しい繋がり方を模索し、柔軟に実践すること。はつねが先駆的に実践できれば、高齢者の多く暮らす下初音町においての新たなロールモデルとなり得ないか。コロナと共存する1年をなんとか無事に乗り越えてきたが、守りに入るだけでなく一歩前進したアイデアをかたちにしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業所設立より20年をかけて築いてきた地域との関係性の維持・発展。</li> <li>■ 従来からのコミュニケーションの実践。またそのエッセンスを生かしつつ、新しいコミュニケーションを柔軟につくる。</li> <li>■ 運営推進会議やふれあいサロン(当事業所地域活動)との連動。</li> <li>■ 地域の関係機関や有志の方たちと共に、コロナ禍での繋がり方をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運営推進会議にて地域の情報を集め、民生委員・地域包括・家族らと課題を共有しアイデアを出し合う。</li> <li>■ 週2回、向かいの牛乳屋さんの敷地で催される青空青果市に伺う。買い物と合わせて地域のお客さんたちとのコミュニケーションの機会として活用する。</li> <li>■ 牛乳屋さん(宅配がメイン)とコロナ禍での地域の暮らしの変化を情報共有する。</li> <li>■ 感染状況を見つつ、牛乳屋さんと協働できる催しができないか模索する(青空青果市のノウハウ・オープンエアの敷地を生かせないか)。“密にはならずとも互いの顔を見て、声を掛け合える”場の実現機会を見計らう。</li> <li>■ ふれあいサロン参加者へ折々にお手紙を送り関係を途切れず繋ぎ、現状把握に努める。</li> </ul>	12ヶ月
3	33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>2020年度は看取り、入退居なく経過。しかし看取りの前段階に近い入居者や、慢性疾患を抱えて心身状態の揺らぎがちな入居者が複数名暮らしている状況である。今年度、ACPを進めていくことを事業計画に掲げていたが、面会を中止し、市内各所の高齢者施設で集団感染が報じられる中、改めて家族に意向を聴き取ること、コロナ禍で家族に将来に向き合うことを求めることは厳しく、見合わせてきた経過がある(身体状況に変化のあった入居者家族には聴き取っているが)。</p> <p>どの入居者・家族もいずれ等しく直面する人生のステージとして、ネガティブな中身に偏重しないように配慮してACPを進めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 面会できない間の入居者の日常を家族に発信し続ける(現状の入居者像を家族と事業所であるべく近づける)</li> <li>■ 具体的に、事業所のできること・できないことを知ってもらえる(現在、当事業所での看取りを希望される家族が多い)。</li> <li>■ 本人と家族の最期に対する意向を聴き取る(DNT含め)。</li> <li>■ 家族と事業所で入居者の最期に対するイメージを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス担当者会議の際に看取り、急変時の意向確認を行っており、それを継続する。</li> <li>■ 家族にとって抵抗感の少ないDNTの書式を研究する。</li> <li>■ 過去にホームで看取りを行った入居者家族にアポイントを取り、当時の看取りについて聴き取り、ケースを知れる小冊子を作成する(匿名性の確保など、当該家族と要相談)。</li> </ul>	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。